第２回諏訪東京理科大学公立化等検討有識者会議　会議録

開　催　日　時	平成２８年4月１３日（水）　１３時３０分 ～ １５時３０分		
開　催　場　所	茅野市役所　8Ｆ大ホール		
出　席　者　数	３０人		
欠　席　者　数	０人		
公開・非公開の別	公開　・　非公開	傍聴者の数	１人

会議結果

協議内容・発言内容（概要）

【会議の内容】

１　開会
２　委員長あいさつ
３　新委員紹介（資料１）
４　報告事項
（１）第１回諏訪東京理科大学公立化等検討有識者会議の結果について（資料２）
（２）第２回諏訪東京理科大学公立化等検討協議会の結果について　　（資料３）
５　協議事項
（１）諏訪東京理科大学に関する意見等について（資料４）
　ア　質問事項について　　（資料４－Ａ）（資料５）
　イ　公立化について　　（資料４－Ｂ）
　ウ　魅力ある大学にするための方策について（資料４－Ｃ）
（２）その他
６　その他
７　閉会

■ 協議事項（１）「ア　質問事項について」 の有識者会議の意見

・これからも少子化が進み、他の私立大学の公立化が進む中で、学生の奪い合いになっていくが、定員である 300 人を確保し続けられるか。
⇒(事務局)300 人という数字は、①県内高校生の４分の１は、県内大学に進学希望があるという点、②大学進学率についても全国平均と比べ長野県は 10%程度低い点、③県外大学への流出率が 82.6%と高い点、からみても増えていく伸び代があると考えられる。

・教員数は今までどおりであり、職員数も東京理科大学にかなり依存しているが、独立した場合の人件費の差額についてどのようにしていくか。
⇒(事務局)財政シミュレーションでは職員増加分の人件費も見込んでいる。

■ 協議事項（１）「イ　公立化について」 の有識者会議の意見

・公立化をした時の当面の魅力は、授業料が安くなることだと思う。
・公費が減少すれば、授業料を上げなければならないが、公費を絶えず注入しながら、安い授業料で継続できるか。
・大学に進学するメリットは、①就職が良い、②所得が上がる、の２点になると思うが、大学に来たメリットを学生に与えることができるかどうか。きちんとした就職口がある、または経済的にメリットがある、ということを実際の数字で示していくことが重要である。
・今年度の入学者を分析すると、公立大学になることを意識して、県外からの入学者が増えている。
・諏訪東京理科大学の名前がもつブランド力と、公立化することにより授業料が安くなることは、大学選びにおいて大きな要素になると思う。

・今後のスケジュール、大学の設置主体をどのように考えているか。いろいろな枠組みがあるが、平成30年４月に開学するとすれば、早急に決めないと間に合わないのではないか。

⇒（事務局）検討協議会の検討事項となるが、今後、一部事務組合を作り、それが設置主体となることも考えられる。また、大学を柔軟に運営していくため、公立大学法人を設けていければと考えている。

■ 協議事項（１）「ウ　魅力ある大学にするための方策について」 の有識者会議の意見

・公立化を行った他大学の実績を開学後まで見てみると、全体としては公立化当初は志願倍率が非常に上がるが、数年先まで見ると、倍率が高止まりしている大学と減っていく大学とがある。
・偏差値を上げて、ワーカークラスではなく、リーダーの育成を行うところまで持っていけるのかどうか、またそれを維持していくことができるかどうか。
・専門性を持った「技術英語」の習得を、大学の魅力として捉えてもいいのではないか。
・英語については、大学で基礎を学び、企業で深く掘り下げていくというのもいいと思う。
・英語を話せることは大事ではあるが、一番は本質を伝えることが重要である。
・地元の子供たちが地元の大学へ行き、そこでキャリアをつけてもらうことが大事である。
・大学卒業後も地元に残ることにより、地元の教育に対してお金が循環していくことは効果的であると思う。
・理科系に特化するだけではなく、準総合大学化し学生の選択肢を増やすことも良いのではないか。
・企業から見て諏訪東京理科大学の学生がほしいか、また、学生から見て諏訪東京理科大学へ行きたいか、そういった観点で魅力ある大学づくりを考えていくことが大切である。
・中小規模の大学であっても、様々な魅力的な取組により定員が割れていないところもある。その好例が松本大学であり、地元企業へのインターンシップなど熱心に取り組んでいる。
・新しい大学を作るにあたって、構えとして魅力を作るというのも必要であるが、同時に大学の中で実際の活動を通じて魅力を作っていくことも重要である。
・地元志向、地元企業との関わりを大事にする熱心な教員の採用など、大学内での努力も重要である。

■ 第２回諏訪東京理科大学公立化等検討有識者会議のまとめ

【公立化について】

・諏訪東京理科大学を存続することに異議がなく、大学の公立化についても、地域産業への技術支援や人材育成による連携強化、地域経済の活性化、人口減少抑制効果などから、地元地域からの期待は大きい。
・公立化することが良いという大方の意見に、財政的な見通し、学生確保、魅力ある大学づくりの必要性などについて懸念する意見を添えて、公立化等検討協議会に伝える。

【魅力ある大学にするための方策について】

・委員から多く寄せられた「魅力ある大学にするための方策」に関する意見を参考に、公立化等検討協議会で十分協議するよう、検討協議会に伝える。